



## 学習企画

第3回

# 「軍事国家への道を許さない」

## 国民の関心事は「日本の防衛力」

さて、これまでの政府の建前は、専守防衛でした。ただ、実態はそれとは似ても似つかない軍事力を保有してしまっていることも事実です。それでも建前で「専守防衛」と言ってきました。現在の危険は、その建前すら投げ捨ててしまっているとことにあります。

では、本当の意味での専守防衛は可能なのか？あるいはどのくらいの軍事力を持っていけばいいのかという問題が起こってきます。多くの国民は、ロシアの軍事侵攻をニュースで見て日本の防衛力に関心が集

まっているところです。

ここで大事なことは、前号まで記しましたが、差し迫った危機はないということです。もちろん国と国とのことです。さまざまなことで意見の相違やトラブルになることはあるでしょうが、戦争が迫っているというような状況ではありません。あるとしたら、日本が積極的に戦争状態を作り出し軍事行動をおこした時です。日本の防衛は、憲法に基づいた対応をすることが基本だということです。

## 日本国憲法

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基づくものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令および詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と正義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立とうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

## 日本の軍事力は現在でも世界第3位～第5位

さて、日本の軍事費は世界第8位ということはニュースで流されています。これでもものすごい軍事力であることは、想像できます。しかし注意しなければならないのは、ここには他国で軍事費とされている海上保安庁の金額は入っていません。また他国では軍事費の中に入れていない軍事恩給も入っていません。他国と同じように計算すると今でもGDP比1%は超えているのが日本の実態です。

なお、金額の中には軍人の人件費も入っていますから軍人が多い国は、それだけで軍事費が多くなってしまふという傾向があります。ですから、軍事費のみでは軍事力は計れないのです。軍事力という点で見ると、持っている兵器の性能・稼働率・訓練の練度などを含めて考えなくてはなりません。そうすると現在の日本の自衛隊は最新鋭の戦闘機・護衛艦なども持っていますし、訓練も非常に活発にやっていますので、現在でも世界第3位～世界第5位の軍事力というところが妥当な線だろうと思います。

| 順位 | 国       | 金額(億ドル) |
|----|---------|---------|
| 1  | アメリカ    | 7,380   |
| 2  | 中国      | 1,933   |
| 3  | インド     | 641     |
| 4  | イギリス    | 615     |
| 5  | ロシア     | 606     |
| 6  | フランス    | 550     |
| 7  | ドイツ     | 513     |
| 8  | 日本      | 497     |
| 9  | サウジアラビア | 485     |
| 10 | 韓国      | 404     |

## 周辺国との軍事力比較

さて、前回周辺国との軍事的な対立はないと記しました。しかしながら、国民の間では、「なんとなく物騒だ。」「強大な軍事力をもっている。」という不安があることも事実です。特にロシア・中国・北朝鮮に対しては不安がある方も多いと思います。そこで、それぞれ3国の軍事力を次回から記したいと思います。

結論からいうとこの3国とも日本を攻める軍事的能力はいまのところないと言えるということです。下表は、日本周辺の国の軍事力および極東アメリカ軍の軍事力を簡易的にまとめたものです。この一覧から見ると大きく突出している軍事力をもっている国はないということです。(国吉)

|          | ロシア    | 中国     | 北朝鮮   | 韓国   | 日本   | 台湾   | 米軍   |
|----------|--------|--------|-------|------|------|------|------|
| 兵員       | 90万人   | 203万人  | 128万人 | 60万人 | 25万人 | 16万人 | 8万人  |
| 基幹旅団     | 46個    | 92個    | 93個   | 50個  | 26個  | 13個  | 1個   |
| 潜水艦      | 49隻    | 55隻    | 20隻   | 16隻  | 21隻  | 4隻   |      |
| 水上戦闘艦    | 151隻   | 82隻    | 2隻    | 26隻  | 51隻  | 26隻  | 14隻  |
| 第4世代機戦闘機 | 735機   | 1,080機 | 18機   | 229機 | 304機 | 325機 | 248機 |
| 防空ミサイル   | 1,300基 | 1,406基 | 350基  | 206基 | 288基 | 202基 | 76基  |

▲ミリタリーバランス2020より作成